株式会社レダックス

2027年３月期　第２四半期

決算説明資料

2026年11月10日

東証スタンダード:7602

Ledax

目次

1. 2027年３月期 第２四半期決算の状況

① 国内中古車市場及び海外輸出の状況
② 第２四半期連結損益計算書
③ 第２四半期連結貸借対照表
④ 第２四半期連結キャッシュ・フロー計算書
⑤ 四半期別比較
⑥ 営業展開の状況

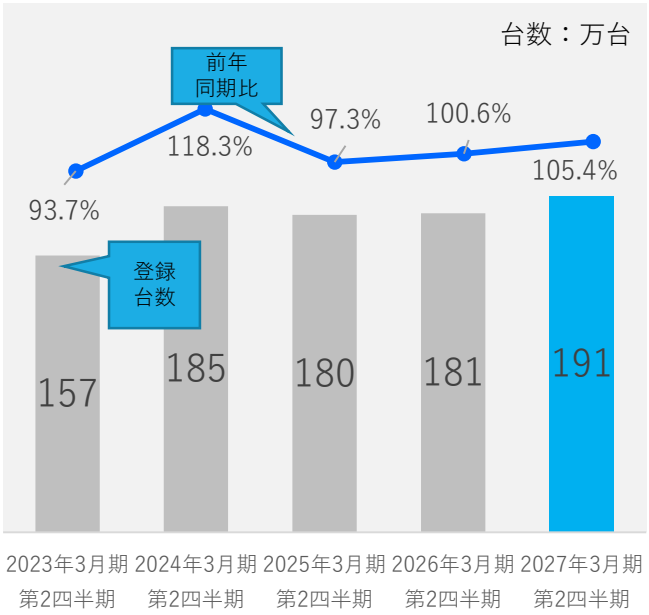
2. 2027年３月期 通期連結業績予想

1. 2027年３月期
第２四半期決算の状況

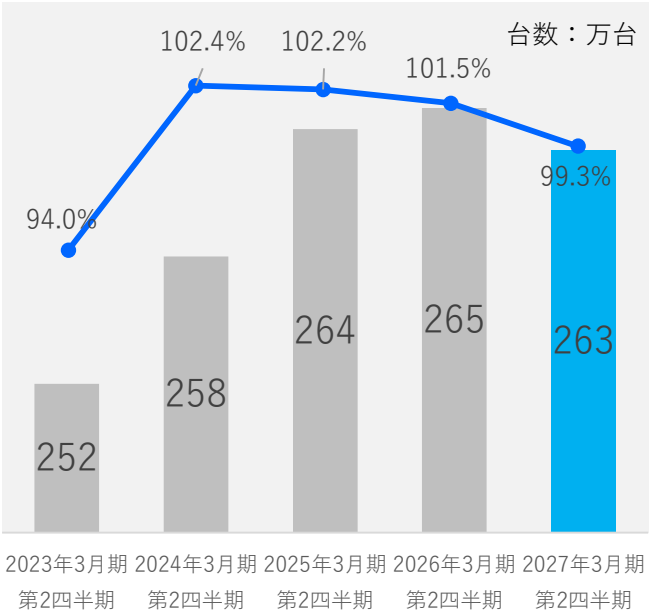
2027年３月期 第２四半期決算の状況
① 国内中古車市場及び海外輸出の状況

- 2026年4月～9月期間の新車登録台数（軽自動車含む）は約191万台（前年同期比5.4％増）となりました。また、中古車登録台数（軽自動車含む）は約263万台（前年同期比0.7減）となりました。
- 同期間の中古乗用車の海外輸出状況は約75万台（前年同期比0.8減）となりました。

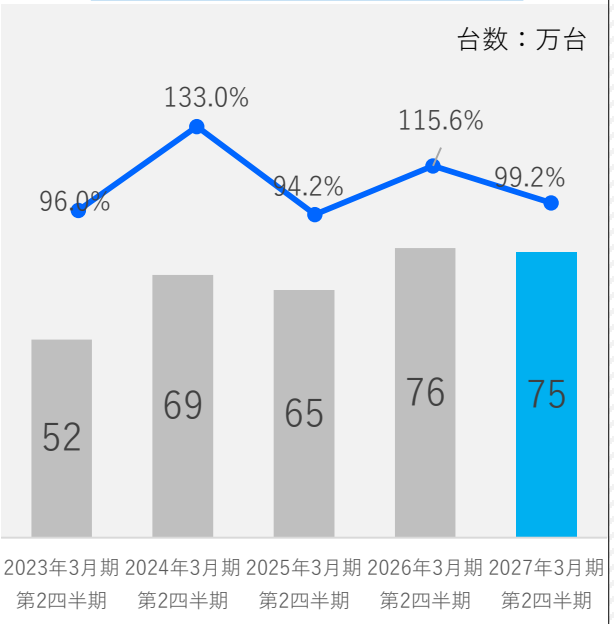
新車登録台数



中古車登録台数



海外輸出台数



出展：一般社団法人日本自動車販売協会連合会
一般社団法人全国軽自動車協会連合会
財務省貿易統計(中古乗用車)

◆ 当2027年３月期第２四半期は前年同期と比較し、増収減益となりました。海外輸出事業等の黒字を確保する事業が収益を下支えするなか、国内自動車流通事業における粗利益率と在庫回転率の改善を加速し、成長分野での事業展開を通じて、持続的な収益力の向上を目指してまいります。

■2027年３月期 第２四半期 連結損益計算書

単位：百万円

	2026年３月期 第２四半期	2027年３月期 第２四半期	前年差異 増減	2027年３月期 通期業績予想	進捗率
売上高	9,275	9,819	＋544	20,000	49.1%
売上総利益	1,466	1,339	－127	―	―
販管費	1,600	1,528	－72	―	―
営業利益	△133	△188	－55	250	―
経常利益	△101	△145	－44	250	―
親会社株主に帰属する中間純利益	△85	△178	－93	175	―
粗利率	15.8%	13.6%	－2.2%		

③ 第２四半期連結貸借対照表(連結BS)

- 総資産は6,992百万円となりました。主な要因は現金及び預金の減少803百万円及び商品の増加667百万円などによるものであります。
- 負債合計は2,192百万円となりました。主な要因は契約負債の増加216百万円、その他流動負債の減少180百万円などによるものであります。
- 純資産は4,800百万円となりました。主な要因は利益剰余金の減少199百万円などによるものであります。
- 高い自己資本比率を維持し、財務健全性を確保しております。

■2027年３月期 第２四半期 連結貸借対照表

単位：百万円

	2026年３月期末	2027年３月期 第２四半期	前年差異 増減
流動資産	5,967	5,767	－200
固定資産	1,196	1,225	＋29
資産合計	7,163	6,992	－171
流動負債	1,892	1,919	＋27
固定負債	282	273	－9
負債合計	2,174	2,192	＋18
純資産合計	4,989	4,800	－189
負債・純資産合計	7,163	6,992	－171
自己資本比率	66.0%	64.8	－1.2%

- 営業活動の結果使用した資金は847百万円となりました。主な要因は税金等調整前中間純損失141百万円、棚卸資産の増加額670百万円、未収消費税等の増加額154百万円及び契約負債の増加額216百万円等によるものです。
- 投資活動の結果使用した資金は631百万円となりました。主な要因は定期預金の純増加額700百万円及び短期貸付金の純減少額130百万円によるものです。
- 財務活動の結果使用した資金は37百万円となりました。主な要因はリース債務の返済による支出15百万円及び配当金の支払額19百万円等によるものです。
- 現金及び現金同等物の残高は645百万円となりました。

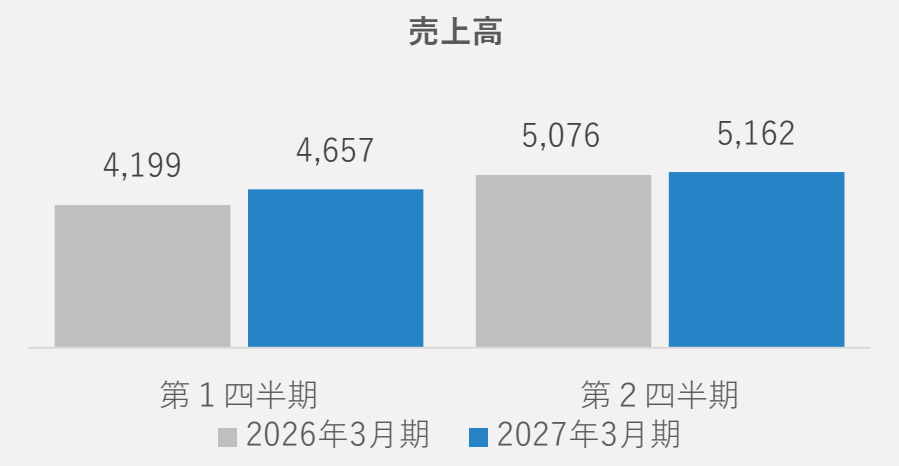
■2027年３月期 第２四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

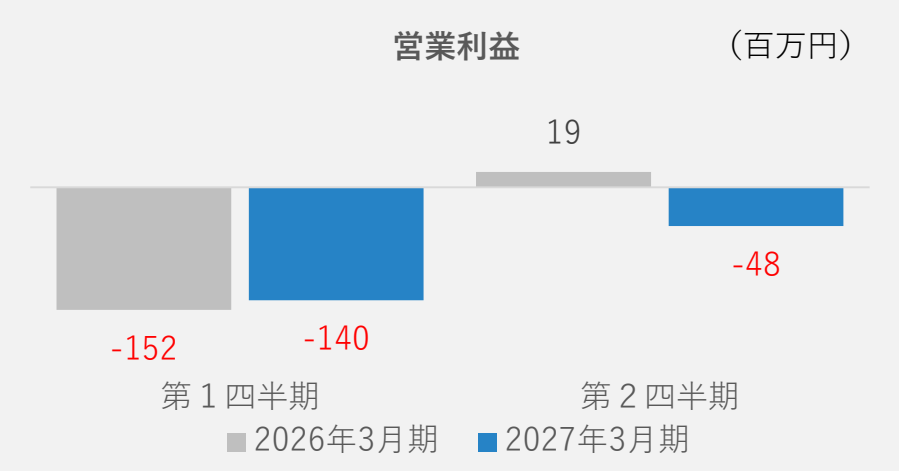
単位：百万円

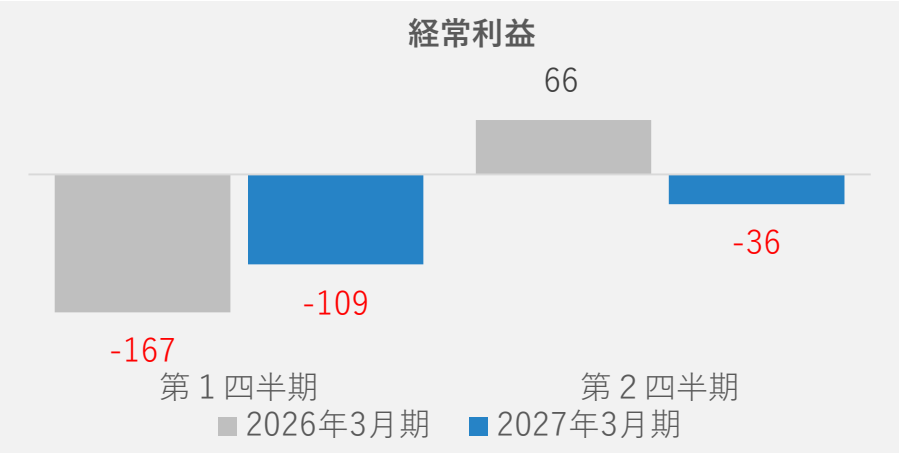
	2026年３月期 第２四半期	2027年３月期 第２四半期	前年差異 増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	△189	△847	－658
投資活動によるキャッシュ・フロー	38	△631	－669
財務活動によるキャッシュ・フロー	△15	△37	－52
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,487	645	－842

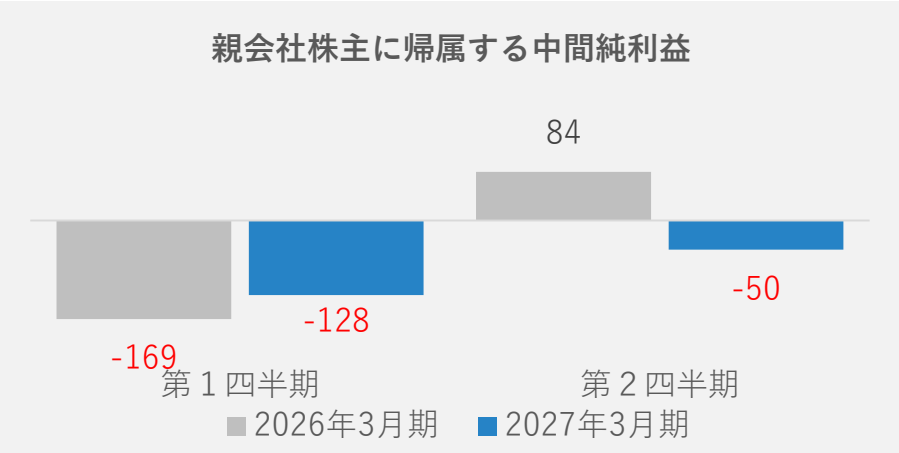
2027年３月期 第２四半期決算の状況
⑤ 四半期別比較

◆ 2027年３月期の第２四半期(7月～9月)においては、海外輸出事業等の黒字を確保する事業が収益を下支えするなかで、国内自動車流通事業における粗利益率と在庫回転率の改善を加速させるとともに、成長分野での事業展開を通じて、持続的な収益力の向上を目指してまいります。









１．国内事業

- 売上の拡大を収益性の向上につなげるため、在庫車両構成の適正化、在庫回転率の向上及び車両１台当たりの粗利益の確保を重点課題として、収益構造改革を推進しております。
- 「カーチス・レンタカー」の展開や、共有在庫プラットフォームを活用した「カーチス倶楽部委託販売サービス」の本格展開により、既存資産の収益化と新たな販売機会の創出を図っております
- 「顧客ファースト」を経営の中核に据えた「買取直販」を推進するとともに、保証・メンテナンスパッケージ、車検及び保険等の付帯サービスを充実させることで、顧客１人当たりの取引機会の拡大を目指しております。
- 納車後の顧客フォローやカーチス倶楽部会員向けサービスの強化を通じて、「生涯顧客」としての継続的な取引につながる収益構造への転換を進めてまいります。

２．海外事業

- 株式会社アガスタによるアジア・オセアニア・アフリカ諸国への輸出が好調を維持しております。
- ウガンダオフィス、パキスタンコールセンターとの連携により、周辺諸国との事業展開を進めております。

３．投資関連事業

- 前年度は純投資目的で保有していた株式会社OSMICホールディングスの株式譲渡による株式売却益の計上など、投資事業の実績を積み重ねてまいりました。今後も投資機会を柔軟に捉え、収益基盤の充実に向けて投資事業を推進してまいります。

４．グローバル・フィンテック戦略

◆ 当社はFRHC社との合弁で株式会社Freedom Japanを2026年1月30日に設立。業務委託契約（7月1日）に基づき規制対応・運営実務の受託を開始し、山下雅史氏を顧問に迎えて体制を強化。金融・FinTech分野での事業機会創出と収益基盤確立を目指します。

５．ＡＩインフラ市場への参入と物流

◆ 当社はSuperX AIのグループ企業と業務提携し（2026年2月12日）、AIサーバー等の国内販売エージェント業務と物流業務を受託。カーチスの貨物利用運送事業登録も活かし、AIインフラ関連需要の取り込みと収益源の拡充を図ります。

６．国内ギフト市場への参入

◆ 当社はハリカの事業承継会社の全株式取得に向け、2026年9月16日にスポンサー契約、同年10月30日に株式譲渡契約を締結（取得日は2027年1月5日予定）。ハリカの顧客基盤と当社グループのギフト事業知見を組み合わせ競争力強化を図り、FRHC社とのFinTech連携も検討してまいります。

2. 2027年３月期　通期連結業績予想

2027年３月期 通期連結業績予想

■売上高

通期**20,000**百万円
（前年比0.7%増）

単位：百万円



■営業利益

通期**250**百万円
（前年比367百万円増）

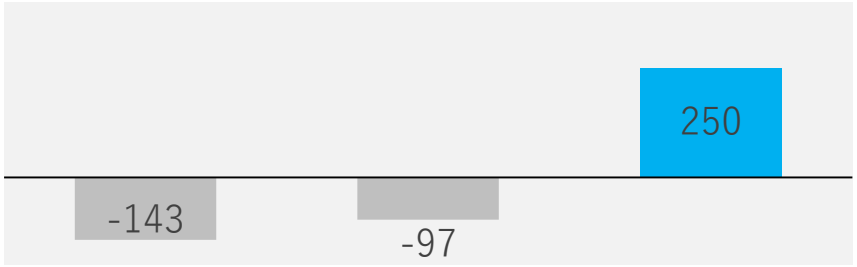
単位：百万円



■経常利益

通期**250**百万円
（前年比347百万円増）

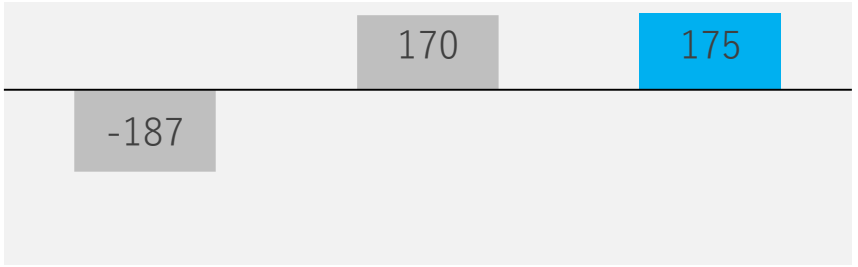
単位：百万円



■親会社株主に帰属する当期純利益

通期**175**百万円
（前年比5百万円増）

単位：百万円



免責事項

本資料は、投資家判断の参考となる情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

本資料には、当社グループの計画・戦略・業績等の将来予想に関する情報が掲載されており、これらの記載は、現在入手可能な情報に基づいて当社が判断したものであり、リスク及び不確実な要素が含まれています。

当社の業績は、経済情勢、事業環境、為替動向等により、
将来予想とは大きく異なる可能性があります。

当社は、本資料の利用または付随して生じたいかなる損害も、一切責任を負うものではありませんのでご了承下さい。